

さいたま市立宮原小学校

学校だより



平成29年7月3日 第4号

学校教育目標 心身ともに健やかで主体的に生きる子どもの育成
・たがいに努める子・たがいにきたえる子・たがいに手をとる子

〒331-0812 さいたま市北区宮原町4-102-6
TEL 048-664-5153 FAX 048-664-8989

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く…」

校長 新堀 栄

毎日蒸し暑く、梅雨空が広がっており、憂鬱な気分になりますが、校舎の2階を見上げると、1年生が大切に育てている朝顔がベランダに咲き誇っています。そして、梅雨の時期の象徴である紫陽花が鍛冶自治会館の道路わきに見事な大輪を咲かせています。

いよいよ7月です。4月からスタートした学校生活も60日あまりが経ち、様々な活動がまとめの時期に入ってきました。

ここまで子どもたちは、いろいろな行事に、そして学習や運動に一生懸命に取り組んできました。1年生もすっかり宮原小学校に慣れました。

「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことを面白く…」とは、作家である井上ひさし氏の言葉です。

私たち教員には、特に胸に深く響く言葉です。この言葉のように、児童に教えることができたなら、と誰もが思っています。

先日、いつものように教室を回っていた時のことです。あるクラスで、算数の授業が行われていました。学習内容は「小数のわり算」の筆算で、私がちょうど見た場面は、“あまり”の解釈でした。『2.5 ÷ 0.7』の計算を筆算で求め、商が『3』で、あまりが『4』になり、そのあまりが正しいのかを担任が問い掛けているところでした。すると、児童の一人が、「わられる数の小数点をあまりのあるところに降ろすんだよ」と発言しました。次に、ある子が「余りの数がわられる数より大きいから、余りは4にはならないよ」と言うのと、またある子は「わられる数が2.5なのにあまりが4になるのはおかしいよ」と具体的に説明し、さらに「実際に検算をして確かめてみればいいよ」と、発言の輪が広がっていったのです。確かに問題文は、『2.5mのリボンを、1人に0.7mずつ配ります。何人に配れますか。また、何mあまりありますか。』というものでした。『最初に2.5mしかリボンがないのに、あまりが4mでは、文意がおかしいことになってしまうので、あまりは0.4mだと思う』という、算数の世界から現実場面の世界に戻した児童の意見に帰着しました。そして、クラスの全員が納得したように見えました。

自分の言葉で易しく、しかも、深く言えるためには、かなりの知識量と高い言語技能が必要となります。面白くとは、もちろん笑わせるように発表することではありません。易しくても深くても相手が納得するように、そして興味を持てるように言うことが大事なことだと考えます。

この授業では、教師や一人の児童の発言だけで答えを導いたわけではなく、子ども同士の意見交換で、確かに子どもの学びが深まったのです。教師が答えを教えるのではなく、子ども同士の学びで知識を獲得した瞬間でした。子どもの学びが深まる瞬間は、教師の言葉よりも友達同士の発表を聞いた時です。本授業でも、「ああ、なるほど。そういうことか。」と、子どもの言葉はすぐに腑に落ちたのです。本当に不思議なものです。この10分足らずのやり取りを参観し、清々しい気持ちで教室を後にしました。

今月の生活目標「暑さに負けず生活をしよう」

宮小フェスティバル

6月9日(金)に宮小フェスティバルを開催しました。今年のテーマは、「もりあげろ!!みんな作ろう ハッピースマイル」です。迷路やすごろく、びっくりボックス、宝探し、ボーリングなど、クラスごとに趣向を凝らしたお店が準備されていました。1年生は、初めての宮小フェスティバルでしたが、2年生のお兄さん、お姉さんと一緒に回ったので、安心して楽しむことができました。3年生以上は、「どんなお店にしようか。」と話し合い、準備をしてきましたので、クラスの団結力が一層高まった様子が見られました。

【宮小フェスティバルのお店で遊ぶ児童】

指導の充実を図るために

心肺蘇生法実習

6月9日(金)、教職員対象の心肺蘇生法伝達講習会を実施しました。応急手当普及員の資格をもつ教員が講師となり、解説、演示を行い、その後学年ごとに実習を行いました。

【訓練用AEDを使用しての実習】

あじさい読書月間

梅雨に入りましたが、例年に比べ雨が少ない状況のため、子どもたちは校庭で元気に遊ぶことができ大変喜んでいました。しかし、6月は校庭と同じくらい図書館が子どもたちでにぎわっていました。あじさい読書月間のイベントとして本を一人2冊まで借りることができるため、図書委員会の児童は大忙しでした。貸出手続きをしたり、読み聞かせをしたり、読み聞かせをするなど「あじさい読書」の取組を支えていました。

【図書委員による読み聞かせ】

人権教育の取組から

各教室の廊下にあるクラス表示やその周辺に、マークを展示しています。これは、人権教育の取組の一つとして、なかよし給食などの異学年交流を行う「なかよし学級」との交流を深めようとするものです。4・5・6年生が学級目標を参考にテーマを考え、それに沿ったオリジナルマークを作成しました。このマークは、なかよし学級となっている1・2・3年生の教室にも掲示しています。各なかよし学級のマークは、どれも素敵なおものです。来校された際は、ぜひご覧ください。

また、授業の充実等を図ることを通して人権教育を推進しています。例えば、3年生の国語では、本の主人公について、自分が想像したことを友達に伝える活動を通して、友達との感じ方や考え方の違いに気付かせるような授業を実施しています。さらに、全てのクラスで、友達からしてもらってうれしかったことを掲示する「サンキューツリー」を作成しています。

【なかよし学級のマーク】

小・中合同研修会

6月19日(月)には、小・中一貫教育の一環として、宮原中学校と合同研修会を実施しました。

4月には、小学校の教員が中学校の授業を参観し、今回は、中学校の教員が小学校の授業を参観しました。互いの授業を見合ったり、その授業について協議をしたりすることを通して、一貫性のある指導の充実を図っています。

【小・中合同の協議会】

＜学校公開について＞

本校では、地域に根差した信頼される開かれた学校づくりを目指し、5月、10月、1月の年3回、学校公開を実施しており、保護者や地域の皆様に本校の教育についてご理解やご意見をいただく機会となっております。なお、参観いただく際には、防犯上の理由により名札や腕章の着用、名簿への記名をお願いしており、名札等の着用がない場合は、お声掛けをさせていただいております。ご協力をよろしく願っています。

＜硬筆展作品展示について＞

さいたま市展覧会及び埼玉県硬筆中央展に出品した児童の作品を7月10日(月)～13日(木)の間、職員室前廊下に展示します。ご来校の際は、ぜひご覧ください。

＜緊急時の連絡先について＞

緊急連絡先に変更があった場合は、お手数ですが、すぐに担任にお知らせいただきますようお願いいたします。また、授業等の中で児童が怪我をしたり、体調がすぐれなかったりした場合など学校から連絡をとらせていただくことがあります。着信があった場合には、速やかに学校まで連絡をしていただくよう、ご協力をお願いいたします。